

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（売場担当） 家電量販店（経営者） 家電量販店（店長）	・商品の単価が下がり、買上客数が多くなる。 ・エコ関連商品の売上が大きく期待できる。特に太陽光関連商品は急激に売上を伸ばし、家庭用高効率給湯器やIH調理器といったオール電化商品もますます売上を伸ばしている。 ・総選挙後には多少の経済の動きがでてくる。しかし、継続するかは不明である。
変わらない		商店街（代表者）	・節約、低価格傾向が、定着したものになりつつある。
		商店街（代表者）	・この夏は冷夏であったが、3か月予報によると気温の高い日が今後続くようであり、衣料品に影響が出る。夏物不振で秋物の仕入れの資金繰りに苦慮する店主も多い。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数、買上数量とも横ばいであるが、意図的なセールやイベントを実施した結果であるため、先行きが良くなるとは考えられない。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物など新しいシーズン商品の展開を実施する時期であるが、例年であれば、この時期予約が入っているブーツやコートなどは予約が皆無に近い。余分なものは購入しない客の購買行動は今年いっぱい続く。
		百貨店（営業担当）	・来客数に極端な変化がないものの、何かを買えば何かを買わないといった消費態度が見られる。全体的には変化のない厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・長雨等の影響で農作物などは非常に高値となっており、米も今後予想がつかない。そのため、消費者の購買意欲が向上するとは思わない。
		スーパー（店長）	・総選挙の結果にかかわらず、不景気感はまだまだ続くであろう。今後拡大するであろう新型インフルエンザの状況だけでは、買物の自粛が見られるのではないかと予想される。
		スーパー（総務担当）	・失業率の悪化、製造業の生産調整は相変わらず続いているため、家計支出を抑える傾向は変わらず、客単価は今後も前年を下回り売上は伸びてこない。
		スーパー（営業担当）	・客の買上点数、一品単価は前年比横ばいまで回復している。今後は、気温や外的要因もあるが、大きく回復する要素はない。
		衣料品専門店（経営者）	・商売を始めて60年になるが、今回のような不景気感を肌で感じたのは初めてである。客の買い渋り、安い商品志向、安くなければ売れない状況になっているので、この先も売上が上がることは不可能である。
		乗用車販売店（経営者）	・企業の業績が上向きまでは自動車の様な大型商品に庶民は食いついてこない。当面は低価格、低燃費、小型化傾向となり経営環境を含め上向き気配はまだ見えない。
		乗用車販売店（経理担当）	・ハイブリッド車の受注残が大きいので当面の販売環境に変化はないが、ハイブリッド車の受注にも若干陰りが出てきたので気がかりである。
		自動車備品販売店（従業員）	・9月の大型連休に向けてメンテナンス需要、ETC、ナビゲーション等の期待はあるが需要はすでに縮小に向かっている。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地域の中核産業である製造業での工場閉鎖や時短が続いている現状が変わらない限り、閉そく感に変化はなく売上は上がらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・9月は大型連休があるが、受注では例年より客数が3割ほど少ない。特に夜の予約が悪い。
		一般レストラン（スタッフ）	・今夏の日照不足等により、米・野菜類の値上げが予測され、原材料の経費増が懸念される。食料品の値上げが続けば消費者の財布のひもが緩むことはない。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約保有は改善傾向にあるが、10月、1月の前年比83～88%を除き、9月は同79%、11月、12月は同68%と大幅に前年割れとなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・「おわら風の盆」の期間の予約状況が伸び悩んでいるほか、全般的に低調な状況となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約から見て今以上に良くなる見込みはない。
旅行代理店（従業員）	・いったん戻りかけた旅行需要が、秋から冬にかけての新型インフルエンザの流行拡大を懸念して、変更や見直し、さらには中止への動きに拍車がかかりそうな様相を呈している。		

		タクシー運転手	・依然として節約傾向が続き、明るい兆しが見られない。しかし、悪い方向にも向かわず、横ばい傾向がしばらく続く。
		通信会社（社員）	・新サービス等販売量に影響する要因がない。
		通信会社（役員）	・大手通信事業者との競争が激しくなるなかで、契約者数の増加に鈍化傾向が見られ、今後の売上推移を従来の堅調な拡大予想から下方修正する可能性もある。
		その他レジャー施設（職員）	・売上高の減少に下げ止まり感が出ているが、増加に転ずる兆しはない。
		美容室（経営者）	・この消費不況は短期間で解消する様な客の雰囲気ではない。
	やや悪くなる	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・雇用情勢も悪く、これといった景気対策もない。このため客の収入も減少しており良くなる要素はない。
		スーパー（店長）	・競合店の新設により、来客数、単価、価格対応など当面は現状が続き、改善することは考えにくい。
		コンビニ（経営者）	・同業者との価格競争に加え、他の業態との競争がますます激しくなっており、価格の下落は今後も続くものと予想され、現状よりもさらに悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・夏物については、セールの前倒しなどで販売促進をかけたが、天候不順もあり売上は結果的に前年比2けたの減少となった。秋物についても好転の兆しは全く感じられない。
		スナック（経営者）	・来店する中小企業の経営者によれば、公的援助金でしのいでいるとか仕事量は例年の5割程度しかないという話を聞いていると、景気の回復は鈍いように思われる。
		観光型旅館（経営者）	・秋からの団体の受入れが前年より悪い。また、最近になって新型インフルエンザの流行もあり、旅行需要が減るのが心配である。
		タクシー運転手	・営業担当と思われる客が乗車すると、以前に比べて元気がないような感じを受ける。
		通信会社（営業担当）	・お盆休み、9月の大型連休と長期休みが続くため、そこでお金を使う人が非常に多くなる。このため2、3か月後は購買活動が鈍化し、どんどん落ち着いていく。
		通信会社（営業担当）	・今後も新商品発売への買い控えが発生して、安価な端末に販売が偏ると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・来客数、問い合わせ数、イベント参加人数が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	・総選挙の動向にもよるが、先行き不安定ななか、展示場への来場者数も減少し続けており、明るい見通しがたたない。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きが少ないことに加え、販売につながる状況も減っている。例年は、お盆以降一定の客の動きがあることから、これからの動きと比較すると昨年以下ではあるが、極端に減少することはなく、じりじりと販売量は減少する。
	悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・総選挙の結果による政局の不安定や新型インフルエンザの流行などで景気後退が予想される。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・総選挙の結果により、官公庁、民間ともにここ2、3か月は商売の話の優先順位が後退し、様子見の状況となり景気は悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・飽和状態にある店舗数に加え、各チェーンの安売りセールのような競争状態は店舗経営をますます厳しくさせている。
		コンビニ（店長）	・競合するコンビニエンスストアが近隣に展開し、今後売上の激減が予想される。
		住関連専門店（店長）	・明るい兆しが見えない。良くなる要因が見当たらないのが現状である。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの影響で旅行業は雷雨状態になることを懸念している。
		テーマパーク（職員）	・団体、グループ、海外客および個人客の利用状況はどれも前年比で悪くなる傾向にある。加えて、新型インフルエンザの流行により、旅行自体がキャンセルまたは延期になる傾向が出てきており、全体としてさらに悪化する。
		住宅販売会社（従業員）	・当社の顧客である個人の消費環境が改善されない。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・政府やマスコミで経済状況が上向いているとの発表があるために、新規設備を抑えていた企業が投資を開始すると予測している。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・客先からは、新規製品等の引き合いが増加しているとの話が聞かれ、2、3か月後には上向いてくる。
		通信業（営業担当）	・電話・システム更改などの需要が少しづつ出てきた。まだまだ低調だが、2、3か月後は期待できるかもしれない。

		金融業（融資担当）	・経済対策が奏功し先行きに明るさが見えてきたが、新政権の施策次第で景気上向きのエンジンがかかる。
変わらない		繊維工業（経営者）	・下期に向かって数量増の期待があるものの、現実には数字がなかなかまとまらない。繊維業界については合繊メーカーの規模縮小の動きが顕著で先行き不安が募る。
		繊維工業（経営者）	・婦人衣料、スポーツ衣料、非衣料ともに多品種小ロット対応さえできれば、先行きの受注が見込める。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場が回復するのは年末から年明けとみており、3か月後は現状と変わらない。
		金属製品製造業（経営者）	・受注の入り具合をみると、現状と変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界経済、特に主力先である欧米など先進国の回復がかぎであり、まだ時間がかかる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・価格帯別に高低があるものの、少なくとも10月ぐらいまでの全体的な受注量は、現在とほぼ同程度のものが確定している。
		輸送業（配車担当）	・政権交代があるなかで、今後の市場環境に対する先行きが不透明であり、荷動きは少ない。
		金融業（融資担当）	・総選挙の結果、公共事業の今後の動向も含め、特に建設業においては先行きの判断がつきにくい状況である。
		不動産業（経営者）	・個人にしても、法人にしても、不動産の購入意欲がない状況が続いている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・折込枚数がプラスに転じない限り景気が良い方向にあるとは言いがたい。地域での出店などもないので数か月先も今の状況が続くと考えられる。
やや悪くなる		食料品製造業（企画担当）	・小売店の陳列棚が9月から秋商材へ変わっていくにつれ、自社品採用を目指し製品価格の値下げ競争が一層激しくなることが予想される。
		建設業（経営者）	・総選挙で政権交代となった場合は、公共事業の凍結、見直し論議が必定となり、建設業全体に不安感がまん延し、それだけでも心理的にも景気後退となる。
		司法書士	・不動産業者や建設業者からは、過去の受注に関してはまだ仕事があるものの、今後の仕事に関しては、激減しているという話をよく聞く。
		税理士（所長）	・一時的なエコカー減税等による景気の上昇が見られるが、それに伴う消費が増えたとしても設備投資での還元は、現在の為替水準では十分ではない。現在のような円高水準となって1年が経過するが、中小企業では円高による大企業の設備投資の縮小や価格の引下げに苦しめられており、景気対策も必要だが、抜本的な為替対策も必要である。
悪くなる		建設業（総務担当）	・設備投資の回復の見通しが不透明であり、工事発注量の増加は見込めず、依然厳しい受注競争が続く。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ライバル会社が県内から撤退するため、奪われていた客が若干戻る兆しがある。
		職業安定所（職員）	・企業からの短期的、臨時的求人の増加が見込まれる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣需要件数の回復の兆しは見られず、就業希望の派遣社員は増えていくばかりである。
		人材派遣会社（社員）	・正社員の産休などの交代要員や急な退職に対する一時しのぎ的な求人しかなく、この状況がしばらく続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・現状で安定していると感じる。一部業界で回復の兆しがあると報じられているが、大きな回復にはまだ遠い。生活者が生活防衛のために備蓄傾向にあり、消費は拡大していない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金等の相談が多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人の少ないなか、雇用保険受給期間の終了した元派遣社員に加え、正社員離職者が増加し就職はさらに厳しくなる。
	悪くなる	-	-